

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	宮崎大学
連携大学名	東京慈恵会医科大学
事業名	地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら拡がる医師養成モデル事業 ~KANEHIROプログラム: 病気を診ずして病人を診よ~

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>宮崎県は二次医療圏ごとの医師数の55.6%が宮崎東諸県医療圏に集中し、人口10万人当たりの医師数で全国平均の244.9人を上回っているのは宮崎東諸県医療圏の353.5人のみで、他の圏域は全国平均を下回っている(2014年統計)。宮崎県第7次医療計画(2018年～2024年3月)では、①若手医師の減少、②医師の地域的な偏在、③特定診療科の医師不足、④女性医師の就労環境及び医師の勤務負担、の4つが重点課題に上がり、これらの課題を解決する施策として「宮崎県内で卒後臨床研修を開始する医師数=80名」を医師養成の数値目標に掲げている。宮崎大学医学部と宮崎県は多角的な連携を強化し、2021年度には宮崎県内で卒後臨床研修を開始する医師数「64名」を数えたが『80名』の目標達成には至っていない。</p> <p>本事業では、地域枠と連動しながら「様々な地域の構造や特性を理解し、総合診療や救急医療、感染症をはじめとする新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師の養成」に取り組む。令和20年(2038年)には宮崎県キャリア形成プログラム適用者延べ人数は「360名」、同プログラム修了者の延べ人数は「200名」を数える見込みで、宮崎県内の医師不足や第二次医療圏間の医師偏在の改善、解消も視野に社会的インパクトの創出を目指す。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
インプット ・プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数18名) 一般公開形式の「キックオフ・シンポジウム(宮崎)」の開催(1回) オンデマンド教材コンテンツ作成(令和4～5年度 24コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数158名) 一般公開フォーラム(宮崎)の開催(1回) 多職種連携に関するオンデマンド教材コンテンツ作成(令和4～5年度 24コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数180名) 一般公開フォーラム(宮崎・東京)の開催(2回) オンデマンド教材コンテンツ作成(16コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数199名) 一般公開フォーラム(宮崎)の開催(1回) 一般公開シンポジウム(宮崎)の開催(1回) オンデマンド教材コンテンツ作成(16コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数213名) 一般公開フォーラム(宮崎・東京)の開催(2回) オンデマンド教材コンテンツ作成(16コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数222名) 一般公開フォーラム(宮崎)の開催(2回) オンデマンド教材コンテンツ作成(16コンテンツ) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和10年度「KANEHIROプログラム」説明会の開催、講座開講(養成目標人数240名) 一般公開フォーラム(宮崎)の開催(1回) 公開シンポジウムの開催(1回) オンデマンド教材コンテンツ作成(16コンテンツ)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 事業担当者による対面協議実施 令和4～5年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和5～6年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 VR・シミュレーション実習の試行開始 事業担当者による教育・実習施設の相互視察実施 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5～6年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和6～7年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 VR・シミュレーション実習の本格実施 令和4～6年度の事業内容総括及びこれまでの成果調査 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6～7年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和7～8年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 VR・シミュレーション実習の本格実施 領域横断型コースを新設 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7～8年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和8～9年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 令和8～9年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和9～10年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 令和9～10年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和10～11年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 令和10～11年度期: コース選択制診療参加型臨床実習説明会 コース選択希望調査を実施 令和10～11年度期: コース選択制診療参加型臨床実習の開始 事業期間全体の内容総括及び期間内に得られた成果に関する調査

③ 選定委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●宮崎県地域医療対策協議会をはじめ、宮崎県医師会、宮崎大学臨床実習協力病院連絡協議会等で本事業の内容と進捗を共有し、医療現場・自治体等の意見やニーズを採り入れていく。 ●一般公開フォーラム／シンポジウムやアンケート調査を通じ、地域住民をはじめとする医療関係者以外の要望や意見、ニーズの収集にも注力していく。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●本事業を通じて構築された「KANEHIROプログラム」は、補助期間終了後も宮崎大学と東京慈恵会医科大学の大学間包括連携協定を基盤に継続し、宮崎県との連携・支援体制も軸にプログラムの発展に取り組む。 ●本事業を通じて制作したオンデマンド教材コンテンツは、補助期間終了後も継続的に見直し、コンテンツの必要な更新・アップデートを図る。 ●補助期間終了後も本事業で制作したホームページの公開を継続し、更新・アップデートされた内容の共有と波及に努める。

④ 選定委員会からの主なコメントに対する対応方針

選定委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
既存の臨床教育に加えて、どんなことを付加すれば、地域で活躍できるようになるのかを明確にすべきである。	KANEHIROプログラムでは既存の臨床教育に加えて、低学年の講座型科目で「地域医療全般に共通する基本的な要素や、多職種連携の重要性などを理解」した上で、クリニック・クラークシップの地域包括ケア実習や東京慈恵会医科大学との交換実習を通じて「各地域の特性に応じた医療ニーズを見定め、広い視野をもって柔軟に対応できる能力の獲得」を付加することで、地域で活躍できる医師養成をはかる。
連携校の貢献は、教育プログラムの基本的理念の提供のみで、具体的な貢献が見えない。	連携校の東京慈恵会医科大学はKANEHIROプログラムに含まれる「VR・シミュレーション実習」の構築をリードし、オンデマンド教材コンテンツの制作を担当するほか、クリニック・クラークシップで宮崎大学の地域枠学生を主な対象とした実習コースの開設と受入・指導等を通じて、本事業に貢献を果たしていく。
地域医療の施設が必ずしも全宮崎県をカバーしているわけではない。また、都会型地域医療の教育の継続性に不安がある。	宮崎大学クリニック・クラークシップⅡにおける「地域包括ケア実習」を中心に、宮崎県の全医療圏をカバーするよう実習協力施設の拡充をはかる。また、都会型地域医療の教育についてはKANEHIROプログラムのコースディレクターを中心に、継続性を有した内容の充実に努めていく。
全国の地域枠教育に横展開を図るべき事業であるにも関わらず、その視点が欠落しているように感じられる。	KANEHIROプログラムの構築を通じて得られた成果は、ホームページを通じて広く発信すると共に、オンデマンド教材コンテンツの配信・共用をシステム化して利便性の向上にも努めていく。この他、宮崎や東京で開催する一般公開フォーラム／シンポジウムや、本事業11拠点が一堂に会する全国フォーラムを通じた横展開の推進にも注力していく。
相互互換による実習の交換に参加した学生からのフィードバックを確実に行い、意図した教育効果でない場合は速やかに是正できる体制を構築すべきである。	相互互換による実習の主体をなす6つのコースに参加した学生からのフィードバックを、コースディレクターを含む事業推進委員会で共有し、意図した教育効果が得られない場合には合議を経て、速やかに是正していく。また、教育プログラム評価委員会にも情報を送り、客観的な評価・意見を求め、必要な改善を加えていく。
二年目以降の計画について、内容に関するものが薄い。	事業推進委員会を中心に、KANEHIROプログラムの充実に向けた令和5年度以降の具体的活動計画を立案し、ホームページで公開していく。また、年次進行に従って具体化した活動計画は隨時、ホームページを更新することで、横展開の推進にも努めていく。